

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100314		
法人名	特定非営利活動法人 かしわ		
事業所名	グループホーム かしわ		
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢586-5		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 当施設は環境的にも、田畑に囲まれており、季節感を目や体で感じとる事が出来、榛名山、赤城山も一望できその様な景色の中で9名の利用者さんが自由にゆったりとした日々を過ごしています。 * 当施設が一番アピールしたい所は利用料が良心的で利用者とその家族の方々にとっては期限のない生活を安心して過ごして頂ける事です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、地域の人達とのつながりを大切にした運営に心がけ、日常の散歩時に地域の人達と挨拶や会話を交わし野菜を頂いたり、隣接地の農作業に励む人に気軽に呼びかけ利用者と一緒に茶を飲み飲談したり、道路清掃時には地域の人達にお茶を用意し立ち寄っていただいたり等交流に努めている。また、事業所のイベント時や地域の子供たちによる太鼓の演奏時には、近隣の人達に呼びかけ一緒に楽しみ、地域の公民館で開催される「ふれあいサロン」へは全利用者が参加し、健康体操や歌・折り紙等で一緒に行い、地元名産の梅で作ったお菓子やお焼きを頂くなど、交流が行われている。代表者・管理者は、働きやすい環境の整備に努め、開設当初からの職員も多く、職員一丸となって利用者が地域の中で安心して暮らせるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人達とゆっくりと安らぎのある個人の尊厳を大切に……という理念に基づき全職員が共通した認識を持ち実践している。	支援方法に問題が提起された時等は、申し送り時や職員会議で話し合い理念に立ち返り、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中に住んでいる為、町内費を納入し、その様な中で散歩中にて挨拶を交わし合ったり、近隣の作物を作っている方々ともお茶を出したり、収穫物を頂いたり良い関係を保っている。	日常の散歩時や隣接の畑仕事の人には気軽に声をかけ一緒にお茶を飲んだり、公民館での「ふれあいサロン」には全利用者が参加したりしている。また、地域の道路清掃時にはお茶を用意し、地域の人達に立ち寄っていただく等交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達と施設の利用者さんとが、行事を通して交流の場を設け理解してもらえる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の曜日は家族の希望である土曜日に行い半数以上の参加の中、活動状況を報告し出した意見を元にサービス向上に活かしている。	会議開催は、家族の希望により奇数月の土曜日に実施している。多数の家族の参加があり、事業報告や活動報告を行い意見交換している。また、家族毎に利用者の日頃の様子や身体状況を報告し、歩行が不安定な方においてはシルバーカーの利用や履き易い上履きの使用について相談したり、お盆や正月に家族や親戚等と過ごせるよう帰省を提案したり等、家族と話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の主催する農業祭、その他には利用者と共に参加している。	市の担当者とは、更新申請時や運営推進会議録等を持参し、空き情報等事業所の実情を伝えている。市からは、デイサービス事業の更新についての指導や市で主催する農業祭や地域のキツネの嫁入りの情報を得てサービスに活かし、協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束に関する外部研修に参加し、参加後は全職員でミーティングや勉強会で話し合い、共有を図っている。不穏時の利用者には気分転換のため職員が付き添い外出するなど、開設当初から玄関の鍵を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での虐待が見過ごされる事がない様、注意し又防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設にも該当する利用者がいるが家族側で弁護士に依頼している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の入所時、家族を含め説明をし納得をし理解して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関先に設置してある。普段生活している中での利用者の声、又会議時、面会時等での、意見要望などを聞いている。	玄関に意見箱を設置し、契約時に外部の苦情・相談窓口について説明している。意見や要望は家族の面会時や会議開催時に、直接聞くようにしている。夜間せん妄のある利用者について家族と相談し、居室内を遮光カーテンに替え、利用者が安眠できるようになる等、意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の申し送り、会議等で意見提案を出しその都度話し合いを持ち反映させている。	日々の申し送りや職員会議においてケア方法に関する意見交換を行い、統一したサービスの提供に心がけている。代表者・管理者は、職員が意見や提案を出しやすいような環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修を通して介護者としての能力を向上し、やりがいのある仕事環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上の為、順番にて研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換研修を行いサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活の中で利用者の変化の見逃しがない様チェックをし、個々の利用者の話を聞く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に当ホームに来所して頂き家族又、利用者の希望、不安なく安心して生活が送れる様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人がどんな事を希望しているかを見極め、その人に合った生活が出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来る事は手伝ってもらい、人生の先輩として尊敬の気持ちを持ちお互いに支え合い過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の状況を蜜に報告し、本人、家族、職員で共に支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人には気軽に来所できる様、家族を通して声掛けをして頂いている。	家族の他に、姉妹や友人等が面会に訪れている。また、地域の「ふれあいサロン」で知り合った人達が、手づくりのお菓子等を持参し来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志上手く関わりが持てる様、職員が配慮したり、孤立せず大勢で参加してもらい楽しく生活できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活歴を家族に聞き把握し本人自身どう生活して生きたいのかを希望を取り入れ困難な場合はなるべく本人本位になる様検討している。	日々の関わりの中から、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。内気の人には居室で話を聞くようにし、入居前の生活歴や家族の意見を参考に、本人本位の生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの生活歴を詳しく聞き得意な事を活かし喜びにつながる様援助し、出来る限りその人に合った生活ができる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のケアチェック(バイタル、排泄、水分摂取量、食事量、睡眠時間)の現状の把握に努め心身の変化にも気配りし、見落としの無い様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、職員から情報を得て月1回のケア会議での話し合い通常6ヶ月毎に作成している、身体状況の変化等においては、その都度、主治医の指示をおおぎ常に現状に即した計画を作成し皆で共有している。	毎月モニタリングを行い、家族に説明し了承を得ている。毎月ケア会議を開催し、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。心身の状況が変化した場合には、その都度変更を行っている。介護計画は見やすいように一冊にファイルして保管している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子(ケア記録、日勤簿、夜勤簿)等を個別に記録し、特変事にはなるべく詳しく記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GH単独型であり、認知症対応型共同生活介護のみの支援である。(通院、買い物等には応じている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンのボランティア、民生委員の方々の協力を得、時には本人自身も何か出来る事はと散歩時に、ゴミ拾いや空き缶ひろいなど行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切にし主治医と事業所との関係を築きながら、安心して適切な医療を受けられる様支援している。	かかりつけ医への受診は家族で対応し、受診時に身体状況や日常の様子についてのメモを渡し、適切な医療を受けられるよう支援している。事業所は2医院を協力医としており、月1～2回の往診を受けている。受診結果は、「受診・投薬控えノート」に記載し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた変化や気付きがある場合、職場内の看護職員者に相談し助言を求め適切な対応に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の症状に応じて医療機関との情報交換を蜜にとり、以後適切な治療が安心して受けられる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、入所時に施設が出来る範囲は理解し納得してもらっている入居している限りはベストを尽くす。	重度化や終末期においては、契約時に説明し、医療行為を必要とした場合を除き、その都度、主治医の指示のもと、事業所として出来る限りの支援に努めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備える為、全ての職員が救命講習を受講しているが更なる実践力を身につける様定期的な訓練を計りたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(通報、避難、消火)を実施、消防署、防災業者、地域の住民の立ち合いの上行っている。	併設グループホームとの合同により年2回、うち1回を消防署立会いのもとに夜間想定による防災訓練を実施している。訓練には、地域の人達が参加されている。食糧や飲水を備蓄している。今後、地域の人達を含めた緊急連絡網作成を検討している。	緊急連絡網作成においては、より多くの近隣住民の協力体制を得られるよう、また、了解のもとに作成されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しその人に合った言葉かけやケアを職員全員で行っている。	一人ひとりの声かけ時は、「さん」付けを基本としている。トイレ誘導時は、さりげない声かけに注意するよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何気なく要望がありそうな様子を見取りながら、さりげなく声掛けをし一対一で話が出る様な時間を時々取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者の希望を取り入れ楽しく過せる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の好みを活かしその人らしい、オシャレや身だしなみが保てる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し又、その季節の旬な物を献立に取り入れ楽しみになる様支援している。下準備又は片付け等出来る事は一緒に行っている。	食事は、週4日を外注による献立をもとに、食材を利用し調理している。他の3日は利用者の希望を聞きながら、食事づくりをしている。利用者は、下ごしらえ・下膳など出来ることを行い、率先して食器拭きを行っている人もいる。苑庭で栽培した野菜を添え、職員と一緒に食事をしている。また、受診日には家族と共に外食する等食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、水分摂取量は一人一人チェックし不足しない様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しており、夜間は義歯を預り毎日消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個人に合わせた排泄リズムを作り自立に向けて支援している。	排泄チェック表を作成し、排便については全員について記録を行い、排尿については一人の方について排泄パターンを把握しながら排泄の自立にむけた支援を行っている。また、繊維質の多い食材を使い、便秘の予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の食材と繊維質等を含むものを取り入れ、水分摂取の工夫や朝のラジオ体操も日課にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面、健康面を考慮した上で利用者の希望に合わせた入浴を行っている。季節のゆず湯、菖蒲湯等を取り入れ楽しんでいる。	入浴は週2回、利用者の希望に合わせて実施している。季節のゆず湯などを取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の希望により、就寝時間、照明、騒音等にも配慮して休息できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の用法や副作用や用量については、全職員が把握しており症状の変化を見のがす事なく確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に応じ、その人が張り合いの持てる様環境を整え喜びのある生活が送れる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	安全面、健康面を考慮した上で利用者の希望に沿い、利用者全員で参加できる様支援している。	年間を通して、ほぼ毎日のように近隣を散歩している。入浴日以外は外出行事を企画し、季節の花見や外食に出掛けている。また、天気の良い日は予定を変更し、近隣のコスモス見物に出掛ける等皆で外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る利用者には希望に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じてその都度電話のやりとりが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井には青空が描かれており、又天窓があり、全体が明るくテーブルには季節の花が置かれ、壁には利用者の作品や写真等があり、心地よく過せる空間になっている。	共用の居間は明るく、畳のコーナーには炬燵が設置され、南側にはベンチもあり、思い思いに休めるよう配慮されている。また、壁面には利用者の折り紙の作品や職員が毛糸で編んだ人形等の作品が飾られ、皆で楽しめるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人自由に過ごせる様、コタツ、ベンチ等ゆとりのある空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には手作りの表札が掛けられ、分かりやすく、居室内には馴染みの家具や本人作の折り紙等の作品や好みの置物など自由に飾られている。	各居室のドアには、職員の手作りの表札が掛けられわかりやすい。居室内は好みの置物やテレビ・使い慣れたタンスなどが持ち込まれ、文机で新聞記事を抜き書きをしている人など、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心した日常生活が送れる様、安全な環境作りに配慮し、一人一人自立した生活が送れる様支援している。		